

犬山学



木曾街道：犬山市善師野地区

2025年度特別展「木曾街道」の開催

第19回犬山学サロン

令和7年度 第2回犬山歴史文化ぷらっとフォーム

犬山市民総合大学敬道館グローバル学部・小牧市大学連携講座

2025年度特別展「木曾街道」の開催

犬山学研究センター長 中村 真咲

犬山学研究センターでは、2025年度特別展「木曾街道」を2025年12月12日～2026年2月9日に名古屋経済大学図書館1階で開催しました。

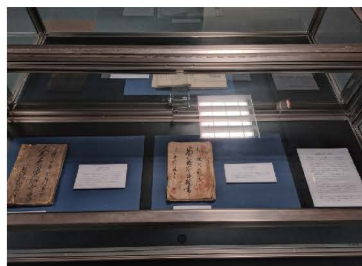
木曾街道は、江戸時代のはじめに尾張藩によって整備された名古屋から中山道への脇往還（脇街道）の名称です。木曾街道は名古屋城と木曾（尾張藩領）を結び、名古屋城下清水口から小牧・楽田・羽黒を通り、善師野から土田を超え太田宿と伏見宿の間で中山道につながる10里8丁（約40km）の道筋で、別名「上（うわ）街道」とも呼ばれました。

木曾街道は、稲置街道、岐阜街道、岡崎街道と並んで重要地点と名古屋城を直結するために、五街道に準じた施設と制度を整え、緊急時には大量の藩兵と物資が迅速に移動できる軍事的機能を果たす目的で整備されました。尾張藩によって木曾街道には宿駅・助郷村が設定され、本陣や問屋が置かれ、一里塚が整備されるなど五街道に準じた整備がなされました。

木曾街道は、現在の国道41号線や名鉄小牧線・広見線にほぼ相当します。木曾街道は名古屋経済大学の西側にあり、本学の学生や教職員は大学バスに乗ってかつての木曾街道を毎日通っています。このように木曾街道は、名古屋経済大学の学生・教職員にとって最も身近な旧街道であることから、2025年度特別展で取り上げることになりました。

犬山市内の旧木曾街道には石仏、馬頭観音、道標、常夜灯などが残っており、また現在でも城東地区の木曾街道沿いでは五穀豊穡と虫封じを祈る農村の伝統行事である「虫送り」が行われています。このように、木曾街道には今も江戸時代の名残りを随所に残しています。

特別展を開催するにあたり、木曾街道の宿駅の一つであった善師野の本陣の日比野家が所蔵する貴重な幕末の史料「人馬寄附大加寄高」（天保7年）、「宿内出火之節願書」（文久二年）をお借りして展示させて頂きました。また、名古屋経済大学図書館が所蔵する『尾張名所図会』第6巻に載っている木曾街道の名所で、古くから信仰の対象となってきた巨岩「箕岩（磐座）」の図を展示しました。



名古屋と木曾を結ぶ道には木曾街道のほかに、勝川、坂下、内津を経て内津峠を越えて美濃国に入り大井宿辺りで中山道と合流する下（した）街道がありました。

木曾街道と下街道は、ともに名古屋と信濃を結ぶ街道であり、物資輸送と交通面では競合していましたが、距離面では下街道の方が四里ほど短く、地形的にも平坦であるために有利でした。また、木曾街道では五街道に準じて宿継（宿場ごとに荷物を積み替える運送方法）が原則であったため駄賃が多くかかり、荷物の積み替えで荷物が傷んだり時間がかかったため、多くの商人は下街道を利用しました。

そこで、木曾街道と下街道の競合関係を分かりやすく示す木曾街道と下街道の地図、現在の善師野周辺の地図、旧木曾街道沿いに現在も残る石仏、馬頭観音、常夜灯の写真をパネルとして展示することで、木曾街道の雰囲気を味わえるようにしました。

このように木曾街道は下街道よりも経済的には不利でしたが、幕末に政局が緊迫して社会が騒然とするなか、木曾街道は本来の目的である軍事的・地政学的な価値を発揮することになりました。天狗党の乱（1863年）では天狗党が尾張藩領に侵入する可能性があったことから、尾張藩は木曾街道の警護を固めました。また、第一次長州出兵（1864年）では、前藩主徳川慶勝が征長軍総督に任命されて尾張藩兵の大軍が木曾街道を通過して長州に出陣し、また戊辰戦争では尾張藩草莽隊が木曾街道を通過して信濃や北越方面に出陣しました。

そこで、第一次長州出兵（1864年）で征長軍に参加した諸将の旗を描いた名古屋市博物館の所蔵する「甲子征長討手之諸侯征旌旗水験等略図（かつしせいちょう うつての しょうしょうすいけんとう りやくず）」の複製をパネルとして展示しました。この図の右上には総督徳川慶勝の三つ葉葵の旗と合印等を配し、中央には成瀬隼人正（正肥）の旗が見えます。尾張藩付家老の成瀬正肥とその家臣たちは、幕末・維新期に徳川慶勝を補佐して活躍しましたが、彼らは京都や各地に向かうために木曾街道を何度も往復して激動の時代を駆け抜けました。

この特別展を通して、いにしへの旅人が行き交い、重要な歴史の舞台にもなった木曾街道を身近に感じてもらえれば幸いです。

【主催】名古屋経済大学犬山学研究センター

【展示協力】日比野伸子、名古屋市博物館

【企画協力】特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

【助成】三菱みらい育成財団

第19回犬山学サロン 「犬山の街道を歩く」

名古屋経済大学犬山学研究センター客員准教授、特定非営利法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク副理事長 望月 友恵

犬山市には犬山城がそびえ、北には中山道が通る。これら城や主要街道へ連なる道筋は、時代の変遷を経ながらも旧街道として現在まで受け継がれてきた。

市域を南北に縦断する木曽街道は、名古屋城下から小牧・楽田を経て、善師野を通り土田へ抜け中山道へ至る約40kmの道で、名古屋城下から楽田追分までは犬山街道（稲置街道）と重なる。元和元年（1615）に尾張藩が木曽山を拝領したことを契機に、名古屋城下と木曽山中を結ぶ藩営街道として整備された。街道沿いには、小牧・善師野・土田に宿駅が設けられ、また約一里ごとに一里塚が築かれた。犬山市内では楽田・塔野地・伏屋に一里塚が設置された。名古屋城下から中山道を結ぶもう一つの街道である下街道に対し、「上（うわ）街道」とも呼ばれている。道筋は時代とともに変化し、かつてのルートが明確でなくなった箇所もあるが、旧街道沿いには今も多く文化遺産が残り、往時の面影を静かに伝えている。

木曽街道は中山道から分岐し土田を経て「石拾い峠」を越えて藩境を抜ける。善師野宿へ向かう途中には「箕岩」とよばれる大岩が聳え立ち、この特徴的な姿は『尾張名所図会』にも描かれている。当時、木曽街道を往来していた旅人たちも、この巨岩を見上げながら旅路を急いだことであろう。箕岩を過ぎると善師野宿となるが、ここは木曽街道の宿駅の中でも特に規模が小さく、本陣は一軒のみであった。下街道の交通が盛行するにつれて善師野宿は次第に衰退していったとされる。今日では往時の建物こそ残っていないが、常夜灯や馬頭観音像などの石造物が点々と残り、今もなお旧街道の面影を感じることができる空間である。



街道沿いに聳える「箕岩」

善師野宿から郷瀬川を渡ってしばらく進むと、「左なごや道 右 いぬ山道」と記された道標が立つ。その先も「右 いまい 左 ぜんじ乃」「右 やまみち 左 きそみち」といった行き先を案内する道標が旧街道沿いに点在しており、ここが旧街道であることを彷彿とさせる。

木曽街道は羽黒を通して楽田へ向かうが、かつて楽田原には一里塚が築かれ、名古屋から五里（約20km）に位置することから五里塚とも呼ばれていた。この五里塚から南へ約40mの場所には、享和3（1803）年の年号が刻まれた馬頭観音像が安置されている。正面には「楽田原新田 左 志のき道」とあり、道しるべとしての



馬頭観音像「右やまみち 左きそみち」とある

役割も果たしている。この馬頭観音像については、享和3年に室原の石工・又右衛門に注文した覚書が残っており、岐阜県可児市室原で切り出された「室原石」で作られたと考えられる。この「室原石」と類似の石材は鵜沼や今井でも産出され、それぞれ「鵜沼石」「今井石」などと呼ばれ、同様に石造物に利用されていたことがわかっている。

さらに南に進むと、木曽街道は現在の名鉄小牧線と交差する付近に、かつて追分駅があった。昭和6年の路線開通とともに駅が設けられるが、昭和19年に休止となりそのまま廃駅となっている。

線路を越えて進むと、木曽街道と犬山城下へとつながる犬山街道（稲置街道）が分岐する楽田追分となる。現在も道路の分岐点となっており「右きそ 左犬山みち」「右善光寺左三光神社」などと刻まれた道標が立ち並び、当時の姿をよく伝えている。追分を過ぎると道は杵形に曲がり、楽田の横町・本町に入る。この周辺は、道幅の狭い曲がりくねった道に沿って家々が軒を連ねており、旧街道ならではの趣を感じられる町並みである。また、この間には楽田城の北門・南門跡と伝わる地点があり、木曽街道以前からもこの付近が人々の往来する場所であったことが伺える。この先、木曽街道は旧国道41号線沿いに南下し、小牧宿を経て名古屋城下へと至る。歴史の息づくこの道筋をぜひ歩いてみたい。

講師紹介

名古屋経済大学犬山学研究センター客員准教授
特定非営利法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク副理事長

望月 友恵

名古屋大学文学部、同大学院考古学専攻卒業。平成25年からNPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークの研究員として勤務。青塚古墳ガイダンス施設を中心に文化財の普及啓発に関わる様々な活動をしている。



令和7年度 第2回『犬山歴史文化ぷらっとフォーム』

令和7年度 第2回犬山歴史文化ぷらっとフォームを、2026年2月21日（土）に開催しました（9団体35名参加）。令和7年度のテーマに合わせて木曾街道（上街道）の善師野宿周辺を歩きながら、NPO法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークの望月先生と赤塚先生か

ら当時の様子や街道の意味、そこから古代まで遡った土地の歴史を伺い、参加者からも追加の情報をいただきました。また、善師野石の採掘跡では、犬山学研究センター客員教授の高橋裕平先生から、地域一帯の地質についてのお話もありました。



犬山市民総合大学敬道館グローバル学部・小牧市大学連携講座

本学は、犬山市から委託を受けて「犬山市民総合大学敬道館グローバル学部」を、小牧市とは「連携市民講座」を実施しています。

2025年度、犬山学研究センター関係教員の講座は以下の通りでした。

- 犬山市民総合大学敬道館グローバル学部
・「犬山の水と森林の自然誌」

（森田 実・客員教授）

- 小牧市大学連携市民講座
・「国宝『源氏物語絵巻』の魅力を紐解く」

（四辻 秀紀・特別教授）

他にも多くのジャンルの「市民向け出前講座」を用意しています。ホームページにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

